

人文学部(人文学科)の3つのポリシー

【 学士(文学) 】

大学の目的 (学則 第3条)		学部(学科)の教育研究上の目的 (学部規則等から抜粋)	
<p>本学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。</p>		<p>本学部は、人類の精神的遺産を継承し発展させ、国内外の現代的諸問題に対する深い洞察力を育成し、もって地域社会・国際社会に貢献することを目的とする。</p>	
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー	
<p>【卒業認定・学位授与方針】 人文学部は、人類の精神的遺産を継承し発展させ、国内外の現代的諸問題に対する深い洞察力を育成し、もって地域社会・国際社会に貢献することを理念とする。この理念の下、価値観が多様化し不確実性が增大する現代にあって、ものごとを批判的に受け止め、主体的に生き抜く力と、自らと他者のために、より良い社会を作り出していく力を備えた人材を育成することを目標とする。 本学部では、この理念と目標に基づき、幅広い教養と人文学に関する専門的知識を修得し、人間や社会に関わる課題を自ら発見し、他者と協働して解決できる創造力、責任感、及びコミュニケーション能力を身に付けた者に、学士(文学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 人文学部では、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる5つの能力を学修するために、人文学の教育課程を体系的に編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 ・様々な観点から人間に対する理解を深め、自立した市民として現代を生き抜く知見を身に付けるために、人文学の入門科目とともに教養教育科目を実施する。</p> <p>・多様な集団・組織の中で意思の疎通を図り、豊かな人間関係を築きながら自己を成長させていくことができるように、1年次に導入学修、人文学の入門科目を実施する。</p> <p>・社会の中で自分の果たすべき役割を認識して積極的に行動し、また、他者に対する責任も果たすことができるように、2年次以降、演習、実習・実験等の専門教育科目を実施する。</p> <p>・人文学の研究を通して人間の在り方を探求するとともに、ものごとを多面的に捉える柔軟な思考力、幅広い視野と国際感覚を身に付けた市民・職業人として行動することができるように、2年次以降、講義、講読、演習等の専門教育科目を実施する。</p> <p>・人文学研究に必要な基礎的スキルを修得し、人間や社会に対する深い洞察力や諸事象を多面的にとらえる柔軟な思考力を身に付け、新しい知見や価値を生み出せるように、4年次に卒業研究指導を行う。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 人文学部は、次のような学生を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文学を幅広く、深く学ぶために必要な基礎的能力を持っている人 ・人文学諸分野に知的関心を持ち、人間についての理解を深めたいと考えている人 ・異文化を理解し、多文化共生社会の中で他者と豊かな関係を築きながら自己の成長を目指す人 ・柔軟な思考力、幅広い視野と国際感覚を身に付け、地域社会や国際社会に貢献する市民となることを目指す人 <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】</p> <p>一般選抜(前期日程) 高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、人文学部での学修に関連する科目について理解力と応用力を広く備えた人を選抜する。そのため、大学入学共通テストで「知識・技能」ならびに「思考力・判断力・表現力」を重点的に評価する。教科・科目に係る個別テストでは国語と外国語(英語)を課し、人文学部で学ぶために必要な「知識・技能」ならびに「思考力・判断力・表現力」を評価する。調査書は「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する際の参考資料とする。</p> <p>一般選抜(後期日程) 高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、人文学部での学修に関連する科目について理解力と応用力を備えた人を選抜する。そのため、大学入学共通テストで「知識・技能」ならびに「思考力・判断力・表現力」を重点的に評価する。「小論文」を課し、「思考力・判断力・表現力」を評価する。調査書は「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する際の参考資料とする。</p> <p>特別選抜(学校推薦型選抜Ⅱ) 高等学校卒業レベルの基礎学力を評価するとともに、論理的思考力と文章表現力を備えた人を選抜する。そのため、大学入学共通テストで「知識・技能」ならびに「思考力・判断力・表現力」を重点的に評価する。小論文を課し、「思考力・判断力・表現力」を評価する。調査書は「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する際の参考資料とする。</p> <p>特別選抜(帰国生徒選抜, 社会人選抜) 人文学部での学修に必要な読解力や論理的思考力、文章表現力などを備えた人を選抜する。そのため、小論文を課し、「思考力・判断力・表現力」を評価する。面接では志望動機・学修意欲などを評価し、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」をみる。書類審査(外部英語検定試験の成績・合格証等を含む。)では、「知識・技能」ならびに「思考力・判断力・表現力」を評価する。</p> <p>私費外国人留学生選抜 人文学部での学修に必要な読解力や論理的思考力、文章表現力などを備えた人を選抜する。そのため、日本留学試験では、日本語力、論理的思考力及び数学の基礎的学力などの「知識・技能」ならびに「思考力・判断力・表現力」を評価する。小論文を課し、日本語の文章読解力及び「思考力・判断力・表現力」を評価する。「面接」では志望動機・学修意欲などを評価し、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」をみるとともに口頭による日本語運用能力を評価する。</p> <p>【入学前に学習すべきこと】 大学入学までに、様々な教科と科目について偏りなく学習しておくことが必要である。</p>	
【学修成果の到達目標】		【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	
幅広い知識	<p>【学修成果】 自然・社会・文化・人間について幅広く普遍的な知識を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 教養教育科目及び人文学部における多様な分野の専門教育科目の単位を修得している。</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目において人文科学、社会科学、自然科学の諸分野を幅広く学ぶと同時に、専門入門科目において多様な人文学の領域に触れる学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目における導入学修での少人数指導、専門教育科目における複数の入門科目への参加の指導。アクティブラーニングを取り入れた教育の実施</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等により到達度を客観的に評価する。</p>	
	<p>【学修成果】 人文学の知の遺産を継承し、人間と社会について、文化的多様性と歴史性を踏まえた深い洞察力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 自らの専門分野に関する専門的知識と研究方法を身に付けるに十分な専門教育科目の単位を修得している。</p>	<p>【学修内容】 2年次から専門を選択し、専門分野の講義・演習・実習・実験等の専門教育科目の履修と教員による指導を通じて、専門的学識を集中的に深く身に付ける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習・実習・実験等の専門教育科目における少人数指導。卒業論文の作成の指導</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等によって到達度を客観的に評価する。卒業論文は審査によって評価する。</p>	
【求める資質・能力】		【求める資質・能力】	
<p>人文学を始め大学において幅広く学ぶために必要な基礎学力</p>		<p>人文学諸分野に知的関心を持ち、人間についての理解を深めたいという関心を持つこと。</p>	

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
問題発見・ 解決力	<p>【学修成果】 人間や社会に関わる課題を自ら見つけ出し、調査・分析や考察・討論などに基づいて、自ら解決する能力を身に付けている。</p> <p>【到達目標】 自ら見つけ出した課題に基づいて、調査・分析や考察・討論を踏まえて、明瞭かつ説得力のある結論に至る卒業論文を完成させている。</p>	<p>【学修内容】 人間や社会に関わる課題を発見し、解決に導くために、調査、分析し、思考、表現する力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習・実習・実験等の専門教育科目における少人数指導。卒業論文の作成と指導</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等によって到達度を客観的に評価する。卒業論文は審査によって評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 地域社会や国際社会が抱える問題を適切に認識し、可能な解決や改善を考える能力を磨くことに関心を持てること。</p>
【学修成果の到達目標】		【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
社会貢献力	<p>【学修成果】 社会における役割を自ら見つけ出し、責任を持って取り組んでいくことによって、他者と協働する能力を身に付けている。</p> <p>【到達目標】 自らの責任を果たしつつ他者と協働して学修・研究に取り組むとともに、その学修・研究成果を社会に還元することができる。</p>	<p>【学修内容】 社会の文化的多様性と歴史性を学び、異なる背景を持つ人々と協働し、地域と国際社会に貢献する視野を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習・実習・実験等の専門教育科目における少人数指導</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等によって到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 自らが社会の一員として、地域社会が抱える問題に対して貢献したい、あるいは多文化社会の中で他者との豊かな関係を築くことに貢献したいという意欲を持てること。</p>
コミュニ ケーション能力	<p>【学修成果】 自ら積極的に情報発信するとともに、他者の考え方を理解し、多文化共生社会を自立した市民として生きる能力を身に付けている。</p> <p>【到達目標】 異なる社会的・文化的背景を持つ人々との、意思疎通を可能にする、多様な言語や文化についての知識や能力を身に付け、協働ができる。</p>	<p>【学修内容】 異文化コミュニケーション能力を含め、他者との確に情報を共有し発展させるスキルを養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習・実習・実験等の専門教育科目における少人数指導</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等によって到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 地域社会における多様な考え方との対話において、あるいは異文化間の交流において必要となるコミュニケーション能力を示す文章読解力と、記述による表現力を持っていること。</p>